

双葉町ホームページ「復興掲示板」に寄せられた意見

1 町民のきずな・コミュニティの維持・発展について

意見	避難先	年齢	性別
無念ではあるが、それでも前を見据えるためには、町政担当者を含め「廃村・廃町」もあり得ることを心して、将来設計を練ることも不可欠であろう。「仮の町」ではなく、「新たな町」である。ただし、町民全員での移住は困難かと思われるため、自治体としての「双葉」は残しつつ、町民が選んだ新たな自治体で生活してくためのサポート体制を構築すべきであろう。やはり、税金は新たな自治体に納めるのが流れとなろう。その場合、双葉町が運営可能なように、国に対してバックアップ体制を求めるべきだろう。	その他 福島県外	56～60	男
時間的に余裕がある時や双葉町に住んでいた時には定例的に出かけていたような場所、そこに行けば双葉町の知り合いとも会える可能性が高い場所、出かけようとする気持ちになれるような震災前にはあった場所・機会が作れると良いと思います。 例えば ・町民運動会 ・町民盆踊り ・お墓（分骨、移転ができるとして） ・図書館 ・ゲートボール、パークゴルフ場など	いわき市	56～60	男
絆 コミュニティーの維持発展 福島県内に避難されている方 3,891 人 福島県外に避難されている方 2,992 人となっている。いわき市 1,688 人に集中されている。このデータから全国的に避難していることがわかる。震災後 2 年 9 か月大部分の方がその地域に定着しておるだろう。 町の絆 コミュニティーの維持発展について述べてみる。 その為町社会福祉福祉協議会が行事を開催したり。借り上げ住宅の会を結成したり、それぞれ、その維持につとめている、また教育委員会生涯学習係りでは人手不足なのか女子職員が各地に行事開催にとびまわっておる姿に頭が下がる思いである。それらが 町の絆 コミュニティーの維持発展に貢献しておる。 絆 コミュニティーの維持発展について私なりの考えをのべてみる。復興計画が示している項目によらず自由記載した。 過日一時帰宅をし、墓参りを済ませ、家内の周辺の状況を観察空間線量を測定し、その後時間内で町内の状況空間線量を車から観察測定した。1 台は町から貸与されたもの 1 台は自主購入したもので、2 台のデータに誤差もあるが、町内には場所 1 m 位の距離の差で 1 u s v 上下する場所もあった。途中社会福祉法人せんだんの敷地内に除染された土嚢がつまれていた。双葉海岸まで行ってみた。電柱が倒壊したまま、危険である。マリンタワーは奇跡的に残っておった。ホットスポット、多分風の巻き込み等で驚くほど高線量の場所もあった。私の線量計ではストロンチウム等核種は測定できないが、その実態から、今後の復興が長引くことはあきらかである。 前回は（〇〇〇〇）で投稿したが私の年齢では生前帰宅はできないことが、町の倒壊状態、空間線量の半減期から判断した。	いわき市	81～85	男

1、前述したが全国に避難しておる状況から、行政にも限度がある。 ① 復興計画でも何時までも国が町がと言っていないで、自立することを各自が検討する時期にはいつている。その地域にとけこむ為その地域の行政に参加したり、隣組に入り住民化することで結果的に絆 コミュニティーの再構築ができるもの思う。 ② その地の域特に他県に避難している方には町から名簿を教えてもらい（このことは個人の秘密情報該当しないだろう。拒否する世帯は仕方がない）組織化し定期的な会合を開催し絆の維持に貢献できる。その場合町の支援が是非必要であろう。例えば沖縄県ふたばの会等 2、復興計画でも戻る戻らない人に経済的に個人毎に支援していただくよう下記のことを要望する。自力で東電賠償額で住宅を建築できるのは一部の人である。 町議会は中間貯蔵施設その周辺の地域を国に買えあげてもらい、避難帰還困難区域も同様賠償の上乗せの交渉をしてほしい。町を売るのかというエゴや自分の票にこだわらないで今後の町のありかたを考えてほしい。また早期公営住宅の建設を町一丸となり要望してほしい。（前回も2については述べたので再掲した。）			
少し趣旨と違った話をする事になってしまいますが、ぜひ話したいと思ひ書かせていただきます。 今回NHKの「原発といきたち」を見させていただきました。 原発建設時からの双葉町の歴史を改めて勉強させていただきました。 その中で私の心に強く残ったのは岩本忠夫氏の人生です。 それまで私は岩本忠夫氏を含め原発建設から増設案までにかかわった人々というのは「お金欲しさに行動した人間」、「我々が恩恵と引き換えに故郷を失った愚か者と笑われ、レッテルを張られるのはその人々のせいだ」と失礼ながら思っていました。これは私だけでなく、多くの双葉郡の若者が思っていることではないでしょうか。しかし今回の番組をみると岩本忠夫氏の原発の危機から町民を守りたい、町民の生活を豊かにしたいという複雑な重さを察することができました。私は間違っていました。結果はどうであろうと双葉町を考え戦ってきた岩本忠夫氏は町民の誇り高き英雄なのであります。 残念ながら私と同じようにネットでの岩本忠夫氏を含む双葉町の歴史の偏った考えに惑わされ、双葉町の先人を責めるという考えを持つ若者が増えています。 どうか正しい歴史を双葉の若い者が知ることを心から祈っています。 私は個人的に今回の番組を見て、岩本忠夫氏の熱い心を受け継がないといけないなと、町葬でもやってほしいなという熱い心になっております。	いわき市	16～20	男

2 双葉町町外拠点におけるコミュニティ形成について

意見	避難先	年齢	性別
・復興住宅には、医療施設の併設が望ましいと思います。 ・皆さんが集える集会所の整備も必要ですが、作業所（内職程度の簡単な仕事）を行える施設もあるといいのではと思います。 ・コンビニの併設	郡山市	41～45	男
双葉町町内外の拠点の在り方について意見を述べる 1、はじめに 第1次復興計画135頁にわたり詳細にできている。双葉町町民の生活再建のための施策29年度4年間に取り組む施策を取り上げた。その後でアンケートが実施され比べられない項目があるが戻るか 戻らないかの意見が大きく変わった。その中で双葉町町内外の拠点の在り方について触れられている項目、その復興計画で双葉町以外の生活の拠点3年以内（28年度頃まで）線量が十分低い場所仮の町とされている。項目がある、が情勢が大きく変わった中間貯蔵施設 国の土地買えあげ問題が出ている。この件では（〇〇〇〇）のニックネームで投稿しているので、省略する。復興計画を作成すること自体賛成であるが、その意義がとわれる。下記のデータがしめしている。町の平均寿命男女平均約78歳とかりにすると予想統計によると今後人口の78歳以上30%で町の人口7000人とする約2100人となる。アンケート調査によると若い人はほとんど戻らない。調査によると双葉町に戻ると回答した16パーセントで約1120人となり。78歳以上336人統計上10年後はかなり0人に近づく。結果に町は消滅する統計上の計算になる。 2、集団移住いわき市が多いが、全国的に避難生活をしており、定住化が進みそこで生活再建を検討している方が相当数いるものと思う。しかし今からでも遅くはない。仮の町ではない定住できる、地域を町が買えあげ集団移住させる方策もある。 第1次復興計画のような、抽象的な表現より具体的に示してほしい。 候補地を選び見つければ、町民に呼びかけ希望がある世帯を移住させる。その際就職できる地域また農業ができる地域に限定されるであろう。 3 町外の拠点のありかたで、地域だけを視野に入れないで、若者の教育に将来をかけ後双葉町から学者等有名人を育成することである。調査し能力があるが経済的恵まれていない、これぞと思う人主に学生になるかも知れないが、支援援助し、町が消滅（？）しても町の名は残るだろう。 3、おわりに 町が示した復興計画に対して3項目に意見を述べた、感情を逆なでする内容もあったと思うが、いま町民は今後将来のことで不安でいる。私自身も不安から、うつ状態であったが、前向きに生きよう趣味 体力の向上策 増強策 栄養のバランスに配慮し負けてたまるかと頑張っている。町民の皆様がんばろうよ。をまとめの言葉として終わりたい。	いわき市	81～85	男

3 町民一人一人の生活再建について

意見	避難先	年齢	性別
住民税は免除にしてほしい	その他 福島県内	36～40	男
テーマ3 町民一人ひとりの生活再建について 双葉町アンケート調査によると戻らないと決めたかた67% 決めかねているかたが17%という結果から復興計画もその視点から検討すべきである。 その理由として放射能の不安が挙げられている。 セシウム134、137の半減期30年であり、双葉町の平均値現在5usvとすると年1msv以下(空間線量0.23usv)になるには約100年以上かかることになる。もちろん除染や自然環境を考慮すると、今後のことは誰も分からないと言うしかない。その他半減期が億年にもなる核種の存在も不明である。 国は戻る、戻らない住民にたいして支援していくことを閣議決定した。下記に提案する 1、町として中間貯蔵施設を受け入れの是非、国に買い取りの意思に時間をかけるほど支援が遅れてくる。町民として、殆んどの方が本音では還れないのだからしかたがないと消極的に賛成しておく。(マスコミは事実を報道していない) 但し条件として避難困難区域の扱いを国が買い取り予定地域と同様に戻らない住民にたいして国支援策以上を国に中間貯蔵施設を受け入れを条件に交渉してほしい。 移住を決めたかたには土地、建物については、国は賠償金を引き上げるだけで具体的には示していない。 2、戻りたいという方に対しては90万円とする等。国は戻りたい方針がありありと見えてくる。現在の原発の廃炉の処理に数万年以上かかるだろうし、生活環境の整備に長年の年月を要するだろう。(国は帰還方針をしめていない) 双葉町の人口現在約7000人とする、調査によると双葉町に戻りたいと回答した16パーセントで約1120人となる。 多分生前の帰還は困難になるだろうと予想される。 3、各町村毎の帰還計画を作成しないで、双葉郡を合併し帰還計画を作成するほうが現実的である。それには知事各町村長が検討する課題となる。勿論住民、議会の同意が必要となる。 その他 町復興計画委員は各代表から構成されており、有能な方であるが。 放射能について事前に勉強会をし、自ら判断できる能力をつけることである。学者により健康被害で被爆線量は直線的であるという学者と閾値100msv以下は影響がでないとする学者もあり、長崎 広島の被爆データ、チェノブイリの被爆データからの健康被害も学者によりまちまちである。私は誰も本当のことが解からないと思う。その中で委員が自ら判断する能力をつけて作成してほしい。町 専門講師が示すテーマにひきづりこまれてその課題の中での討議するだけでは、町 専門講師が示す復興計画となる恐れがある、発想の転換を委員の皆様をお願いしたい。以上その他の各テーマは今後課題として検討し投稿する。	いわき市	81～85	男

※原文のまま記載しました。